

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

福山市立東中学校区	校番 1	福山市立東中学校
最終更新日	2025年(令和7年)10月1日	

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する資質・能力	課題発見・解決力、表現力、自他の尊重
児童生徒の不登校や教職員の時間外勤務解消等については、各校で課題認識を共有するとともに、校区全体として更に改善を図る必要がある。	校区で共通して行っている話し合う活動を通じて、授業中に考えを深めたり広げたりしている意識は高まっている。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子 全教職員が2つの部会に所属し、授業研究と実践交流を行う。 ①授業改善・ESD部会 ②特別支援・長欠ゼロ部会

III 自校

ミッション	育成する資質・能力	課題発見・解決力 課	表現する力 園	自他の尊重 尊
地域や社会に貢献する意欲を持った人材の育成	めざす子ども像	一学年 自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに解決方法を考え実行する。	自分の考え方や思いを整理して、分かりやすく、相手に伝える。	自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違う他者を、理解しようとする。
学校教育目標 自ら考え主体的に生きる生徒		二学年 自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに論理的・批判的に解決方法を考え実行する。	自分の考え方や思いを整理して、分かりやすく、根拠に基づいて、相手に伝える。	自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違う他者と、共通の目標のために協力する。
現状 <生徒> ・授業で考えることが面白い。78.7% (+3.4) ・友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めている。91.7% (+1.0) ・中学校の学校生活に満足している。87.3% (O) <教職員> ・授業で考えることが面白い 85% (O) ・生徒の学ぶ意欲を高め、主体的な学びを推進している。91% (+9) ・一方的に説明するだけでなく、生徒の疑問を広げるなど、授業の工夫をしている。100% (+5) ()は前年度との差 全体的に前年度より数値が上がっており、生徒・教職員が学びに意欲的に取り組んでいるが、思考力やそれを刺させる基礎的な力に課題がある。		三学年 自ら課題を見つけ、既習の知識を活用し、他者とともに論理的・批判的に解決方法を考え実行し、新たな課題の発見につなげる。	自分の考え方や思いを整理して、目的・場面・状況に応じて臨機応変に、相手に伝える。	自分を高めようと努力するとともに、考え方や感じ方が違うことの意義を理解し、多様な他者とともに新たな価値の創造に取り組む。
研究 内容等	テーマ 内容等	自ら考え、共に学び深め合う生徒の育成 ～生徒が主体を持つ協働的な学びを通して～ ・生徒同士の関わり合いを授業や行事の中に仕組み、生徒が他者と協働して課題解決を図る活動を通して、資質・能力（21世紀型“スキル＆倫理観”）の育成を図る		
	めざす授業の姿	・疑問や考えを質問・説明し合う活動『学び合い』を通して、考えを深めたり、広げたりしている。		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 東中 学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)		
							□指標に係る 取組状況	プロセス達成 評価評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス達成総合 評価評価	改善方策
1	主体的・対話的で深い学びの推進	★	新規	他者との対話の中で自分の考えを深めたり広げたりしている。	・生徒同士が考えを広めたり深めたりする『学び合い』を、必要な場面で、全ての教科で実施する。 ・授業ポートフォリオの全教科実施 ・学習イベント実施	標準学力調査目標達成率70%以上 生徒アンケート「授業で、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」教科平均60%以上（昨年54%）	・標準学力調査 1年 国63.7 数65.4 2年 国55.1 数46.2 目標値を下回った。 ・生徒アンケート結果 教科平均 93% 各教科で適切に「学び合い」を設定し、実施できた。	3 2	・10月より5教科で、授業内5分ドリル（基本内容）をし、毎週復習テストを実施することで、基礎学力の向上を図る。 ・1・2年生合同校内検定（国・数）、合同勉強会を実施し、学び残しがないように取り組む。 ・各教科の「学び合い」で、より深い学びになるように場の設定等を考える。			
1	ESD（持続可能な開発のための教育）の推進		新規	探究的な学習の過程に沿ってSDGsの課題について取り組んでいる。	総合的な時間の単元においてSDGsの取り組み成果を各学年で発表する。	生徒アンケート「授業で、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている」総合的な学習の時間60%以上（本年度から実施）	生徒アンケート結果 95.7% 各学年で、SDGsに関連した調べ学習、発表等に取り組み、それを通じて考え方を深め、広げることができた。文化祭でも総割りで探究活動を行うことができた。	3 3	それらの活動の振り返りをしっかり行い、次年度よりよい探究活動ができるようにするために、討議・改善策を計画していく。文化祭等でSDGsの調べたことを引き続き実践していく。			
1	豊かな心・健やかな体の育成		新規	自他の個性を尊重し、協力し合い、主体的により良い人間関係を形成しようとしている。	校内フリースクールを中心とした学校での居場所づくり 生徒が主体的に考える学校行事・部活動・ルールづくり	長期欠席者前年度（46名）以下 生徒アンケート「東中の学校生活に満足している」1年生84.3% 2年生 83.1%， 3年生 91.9%。	・長期欠席者数9月末時点（33人） ・生徒アンケート「東中の学校生活に満足している」1年生84.3% 2年生 83.1%， 3年生 91.9%。	3 3	・新規長期欠席者は2名である。生徒理解と細やかな家庭連携を行うことで減らしていく。 ・問題行動が起き、生徒自身の生活が窮屈になると数値が下がっている。そこに気付かせ生徒が主体的にルール作りを行えるようにしたい。			
1	信頼される学校づくり		新規	学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	定期退校日の着実な実施 不祥事防止研修の計画的実施	保護者アンケート肯定的評価75%以上（昨年70%） 時間外勤務が月45時間を超える教職員割合25%（昨年29%）	・保護者アンケート「東中の教育を信頼している」に対する肯定的評価は75.3%となっており、目標値を暫定的に超えている。 ・時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員は約44% 学年内の呼びかけの意識を高め、各個人でのタイムマネジメントを促した。また在校時間記録の分析を行い、必要な場合は個人面談の時間を取っている。	3 3	すぐ一歩を活用し、生徒や学校全体の活動を遅滞なく発信することで、開かれた学校づくりを推進していく。 定期退校日の意識を全員で高められるよう、引き続き学年内等で声掛けをする。特定の教職員に過度な負担がかからないよう、学校全員体制で力合せし合える職場づくりを進める。教職員が本来従事すべき業務に専念できるよう、業務内容の見直しを図り、各教職員のワークライフバランスが充実するようにする。			

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多くつた。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかつた。